

# YUMATSURI-Asakusa

浅草は、日常と異なる文化を体験することのできる場所として旅行者の心を捉えてきました。

風呂好きの日本人——その像を極めつくした「湯」の道が、  
浅草に宿泊施設として華開きます。

絵画、写真、映像、複製文化全盛の現代において、この YUMATSURI-Asakusa は

滞在者のみならず、訪れる人々に直接の入浴体験をもたらします。

浅草の日常と、観光の非日常が結びつく場所。ここは、新時代の文化発信地です。



## 浅草—東京の刺激的なアイコン

異質なものに出会えるまち

社社の集結地として、最先端の娛樂場として人々を魅了してきた浅草。

フラットな地形が観光スポットを構立させ、祭りの日にはお神輿が振舞無事に練り歩きます。

独自性の強い見物がまち全体のスケールで演出されます。



## 旅行客の移動拠点

都心の主要エリート施設の銀座線をはじめ、北関東や阪神へのアクセスが可能な浅草。

隅田川の水上交通の発展により、首都圏観光の拠点化が加速します。国内外の旅行客が行き交うこの場所に、滞在空間を提供します。



## 新しい「湯」でおもてなし

参拝、お祭り、工芸品といった日本文化がまちゅうに散在する浅草。台東区は伝統工芸において都内有数の集積地です。

ここで出合える日本文化それぞれを凝縮させるエッセンスとして「湯」を提案します。

湯に浴び、くつろぎ、参加。公共空間と宿泊スペースをつなぐ媒介としても機能します。



## 浅草六区の顔として、浅草寺との境界として

…

かつてこの地には足湯館があり、新しいもの好きの人々を呼び寄せていました。浅草寺のお参り前後の観光客が通り、浅草町中の街路をめぐる三社祭りの神輿が通り、人力車が通る道です。買い物をする観光客が行き来する五差路には、足を休める休憩所のニーズがあります。

敷地の前の道は伝法院通りから伸びています。浅草寺のお参り前後の観光客が通り、浅草町中の街路をめぐる三社祭りの神輿が通り、人力車が通る道です。買い物をする観光客が行き来する五差路には、足を休める休憩所のニーズがあります。

## 祝祭空間と循環する水の流れ

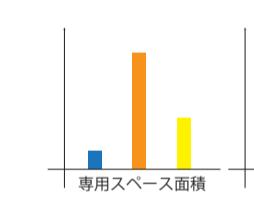
…

飲食所は足湯、浴場のフロアよりも上階に位置しています。食事場は建物内部で荷物を預け足湯エリアで靴を脱ぎます。浴場を利用するためには浴衣に着替え、入浴後に飲食所へどど歩みます。神輿の練り歩きもある一続きのスロープを上って飲食行為を行うことで、湯の全身体験が完成されます。

## 湯に参り、湯に住まうための動線計画

…

飲食所を日帰りの観光客、一般宿泊者、簡易宿泊者の3つに分類し、「同じた」宿泊機能と「間いた」観光地の機能を両立させます。簡易宿泊施設を一般宿泊施設の周囲に分散配置させます。



1階部分の大きなピロティは六区の五差路と伝法院通りをゆるやかにつなぎ、人々の滞留スペースを生み出します。

ストリートカフェは人々にとって、浅草観光の合間に一息つける場所となります。

人気車やお神輿などの路上のアトリエが建物と交差りあいます。

上階には宿泊施設のユニットトイズに隣接して配備され、群として塔を形成します。

公共スペースであるスロープが建物外周部に備わり、居室のプライバシーが保たれると同時にスロープ状のアクティビティが外部へ漏れ出します。

足湯から飲食所への吹き抜け  
1本道の先に、見晴らしのよい飲食所。  
単身宿泊者向けの寝床が一体なり、建物をぐるりと取囲むロープを形成しています。  
頂上の飲食に向う人やお乗りの神輿が行き交い、伝統工芸の小さなものが立ち現れます。

宿泊施設のユニットが本屋外の共用部分を中心配備され、外と内とはすだれや飾りといった境壁装置によって仕切られています。

宿泊者は湯屋と、湯戸のたらぼるが吹き抜けを共有します。

大きな吹き抜けを備えるフロア全体が足湯となりていています。  
飲食や購入のスペースを備え、立ち寄った旅行者も、浴衣や湯着のスペースを借り、みんなが足を湯に浸していくことができます。

大きな吹き抜けを備えるフロア全体が足湯となりていています。  
飲食や購入のスペースを備え、立ち寄った旅行者も、浴衣や湯着のスペースを借り、みんなが足を湯に浸していくことができます。

HLC00285